

第 21 回アンケート結果（抜粋）

1. 一般講演 3：「プロジェクト管理を支援するエージェント実現に向けて」

1. 面白いご研究ですので、システム開発を詳細に区別・区分していただき、今後、研究発表していただけるとありがたいです。
2. 設計工程と実装（プログラミング）とでスケジュール管理（優先順位）が違っていますが、工夫されていることを知りたいです。プログラムの生産性について、①STEP が少ない効率的なプログラム、しかしメンテナンスは難しい、②STEP は多いがメンテナンス性が良い、③ムダな STEP が多いが生産性が高い、の評価が難しく悩んでいます。どう考えられていますか？

⇒同じコードを複数個所にコピーする様な作業は単位時間当たりのコード作成量は大きくなり、逆に処理が複数のプログラムにまたがるようなプログラムの場合には複雑度が高いため、単位時間当たりの生産性は低下すると考えられます。しかし、今回はコーディングに当たって準備する知識の少ない作業を単純に優先順位が高い作業となるように考えています。ここで言う、知識とはビジネスソフトの場合には調査すべき業務情報も含まれます。

3. 作業を開始する前に、作業者が考えている期間が、何を考えているのかを定義できるかがカギのひとつではないかと感じました。
4. 問題の認識はできたが、解決手段が具体的にイメージできませんでした。
5. 非常に興味深い研究だと思いましたが、実用化のイメージが湧きませんでした。
6. 複数人やプロジェクト主体の支援を考慮すべきかと思いました。権限移譲と逆行するが、モチベーションは保てるのでしょうか？

⇒本研究では単純に作業者の単位時間当たりの生産性向上を目的としています。従いましてPERTによる作業間の関係分析やコンカレントエンジニアリング等のプロジェクトやグループの生産性向上は無視しています。これは以前発表しましたように私が国内の企業にヒアリングした範囲では企業のプロジェクトマネジメントでは作業間の関係等を基にした科学的な作業分析や計画立案よりも担当者の能力を重視していることに基づいています。

7. 必要知識を 0/1 で、粒度を表現できるのででしょうか？個人特性の測定法はどうでし

ようか？

⇒現在は必要知識を大まかに記述しているため、ご指摘の通り知識の表現粒度は荒く、実用的ではない面があります。作業を実行するためには実際には数多くの細かな知識が必要です。知識の記述粒度を上げて上位知識を更に詳細な知識を用いて識別することが今後の課題です。細かな知識にはスタッフのスキルにより常識として認識されない知識もあり、知識として認識する必要はあるか否かはスタッフのスキルによると考えられます。

8. 処理能力が充足しているなかで、優先順位の重み付けを論理的に導出する点が興味深い。作業者の思考パターンや興味、モチベーションが変わっていくのか、またはそれ自体が課題なのか、今後の実務によると思いますが期待します。